

序 章 本書の課題と構成

一 問題の所在	3
二 残された課題	18
三 本書の構成	21

第I部 一九世紀の畿内における豪農金融の展開と地域社会状況

第一章 近世後期の畿内における豪農金融の展開と地域

はじめに	31
一 享和と天保期の金融活動	33
二 天保後期と幕末期の展開	48
おわりに	86

第二章 畿内の無担保貸付への私的所有権確立の影響

はじめに	99
一 近世との比較と概観	100

二 明治三〇一四年までの変化(発展期).....	104
三 明治一五〇二六年の変化(衰退期・低迷期).....	119
四 岡田銀行の経営と貸付状況の分析.....	126
おわりに.....	131

第三章 地域金融圏における地域経済維持の構造

——中核的豪農と一般豪農の関係分析を中心に——

はじめに.....	140
一 伊賀村と西山家の経営概観.....	141
二 西山家の経営をとりまく環境.....	151
三 小作地経営の編成過程.....	159
四 貸付金の村内における機能と岡村岡田家との金融関係.....	163
おわりに.....	169

第四章 幕末期河内の地域社会状況

——棉作から米作への転換と慶応期の社会状況の関係——

はじめに.....	175
一 幕末期岡村の社会状況.....	176
二 文久期の仏供田池の堀添普請.....	182

三 稲作率と棉作団地の関係.....	187
四 小作人層の作付動向.....	192
五 慶応期の肝煎制導入と小作騒動.....	195
おわりに.....	199

補論 大坂本屋・正本屋利兵衛の「武鑑」「在方本」の出版活動

はじめに.....	205
一 天保六年の正本屋利兵衛の出版活動.....	206
二 『大坂袖鑑』をめぐる神崎屋金四郎との類版出入.....	211
三 丹南郡岡村岡田家における『便用録』.....	219
おわりに.....	226

第Ⅱ部 信州における近世後期の金融活動

第五章 文化・文政期の松代藩と代官所役人の関係

はじめに.....	233
一 松代藩と代官所役人のやりとりの検討.....	236
二 上徳間村用水普請における「正式」と「内々」.....	237
三 今里村更級左門質地作徳滞出入における「内々」.....	245
おわりに.....	252

第六章 近世後期の信濃国・越後国における豪農の広域金融活動

——更級郡今里村更級家を事例に——

はじめに

一 今里村と更科家の状況

二 広域金融活動の概観と更科家の意識

三 松代藩領への貸付の展開と文化一四年五月の状況

四 証文形態の問題点と文政四一三年の幕府評定所への出訴

五 天保・弘化期の回収過程

六 地域における質地金融の展開との比較

おわりに

終章 本書の総括と今後の課題

一 各章の内容の整理

二 研究史上の意義と今後の課題

初出一覧

あとがき

索引(事項・人名・地名、研究者名)

〔図表目次〕

第I部

丹南郡岡村周辺図

岡村絵図

第1章

表1 「取替帳」新規貸付件数・金額

表2 「取替帳」地域区分分析(文化一五年)

表3 文政五年「取替帳」村内貸付相手

表4 古市村貸付相手一覧

表5 享和元年より天保一〇年までの岡村(本田分)・伊賀村・野中村免定一覧

表6 丹南郡七か村の新規貸付件数と金額の推移

表7 岡村新町田中屋平助貸付一覧

表8 天保一二、一四年岡村余業稼書上

表9 岡村からの距離と件数、金額の関係の編年推移(近世)

表10 岡村からの距離と件数、金額の関係の編年推移・総括表(近世)

表11 大井村との金融関係

表12 林村との金融関係

表13 「村方書附留」訴訟金額

表14 「村方書附留」訴訟相手村名

表15 「岡田家」書附留」訴訟金額

表16 「岡田家」書附留」訴訟相手村名

表17 「岡田家」書附留」訴訟金額五貫匁以上村名

表18 安政七年新規貸付返済表

表19 安政七年新規貸付分・返済利率分布

表20 安政七年新規貸付分・短期長期比較表

表21 嘉永以降預り(借入金)一覧

表22 両替商からの借入金一覧

表23 伯太藩渡辺氏への貸付推移

表24 嘉永七年伯太藩渡辺氏への貸付の詳細

表25 御米札請主名前帳(慶応三年八月)

表26 幕末期沼田藩土岐氏への貸付状況

表27 金融収入、作徳収入比較表

表28 幕末期下作値段米相場(銀建て、金換算)の比較

第2章

表1 取替帳・貸付帳の総合計一覧

表2 岡村からの距離と件数、金額の関係の編年推移

年推移・総括表(明治期).....	102
表3 岡村からの距離と件数、金額の關係の編年推移(明治期・期ごと).....	102
表4 岡村からの距離と件数、金額の關係の編年推移(明治期・年ごと).....	105
表5 遠隔地域・郡ごとまとめ.....	107
表6 明治三年取替帳(石川郡・錦部郡貸付詳細).....	108
表7 明治八年返済状況.....	113
表8 明治一三年返済状況.....	115
表9 貸地貸家所得・利子収入と米価一覧表.....	120
表10 明治一八年返済状況.....	123
表11 小口年賦一覧.....	124
表12 岡田銀行の貸借対照表・損益計算書(明治一七―三三年).....	127
表13 岡田銀行の預金状況.....	129
表14 明治二八年返済状況.....	133

第3章

表1 伊賀村の家族・人口の変化.....	142
表2 西山家の農業経営(宛口高表示).....	142
表3 西山家店卸額の変遷.....	144
表4 伊賀村からの距離と件数、金額の關係の編年推移.....	144

編年推移.....	148
表5 伊賀村・岡村年貢納合の推移.....	152
表6 岡村・藤井寺村の免合(小作料減割合)の推移.....	154
表7 西山家小作人の持高構成.....	159
表8-1 宛口高、未進額、証文銀額の關係表(嘉永三年).....	160
1 2 同右(嘉永六年).....	160
1 3 同右(安政二年).....	160
1 4 同右(文久二年).....	161
1 5 同右(慶応三年).....	161
表9-1 貸付相手と所持高、小作人との關係(天保一〇年).....	164
1 2 同右(安政二年).....	164
1 3 同右(文久二年).....	165
1 4 同右(慶応三年).....	165
表10 貸付相手と所持高、小作人との關係のまとめ.....	167
表11 岡田家から西山家への貸付一覧(新規貸付).....	168
表12 幕末期畿内の豪農金融の特徴.....	169

第4章

表1 文久元年四月からの「郷村書附留」の内容.....	177
表2 米価・繰綿価格の趨勢.....	180
表3 岡村の稲作・棉作の作付推移.....	181
表4 仏供田新池普請入用書出帳の内容.....	185
表5 天保一四年―弘化三年の一筆ごとの稲・棉作付状況.....	189
表6 稲作・棉作の作付状況(天保一四年―弘化三年).....	190
表7 慶応二年岡田家小作人の作付動向.....	193
表8 作付動向の階層別区分.....	194
表9 肝煎の構成と小作騒動での動向.....	197
図1 字大保・寺凌の稲作・棉作地の推移.....	191

補論

表1 天保六年版『大坂袖鑑』の構成.....	206
表2 天保一一年版『大坂便用録』の構成.....	208
表3 天保一〇年版『在方便用録 河内ノ部』の構成.....	209
表4 正本屋の出版した「武鑑」「在方本」.....	210
表5 『大坂本屋仲間記録』の正本屋利兵衛に関する記事.....	213

第II部

第5章

表6 文化一一年版『大坂袖鑑』の構成(一部).....	216
表7 『大坂袖鑑』の版ごとの異同内容.....	218
表8 天保九―一一年の岡田家の書物購入.....	220
表9 『諸用心得方留』の構成.....	222
表10 年頭・八朔御礼の「御礼入用勘定帳」の立会惣代.....	226

表1 松代藩と代官所役人やりとり一覧.....	235
表2 代官所役人役職一覧.....	237
表3 北上野村階層構成表.....	247
表4 文化一四年左門出訴滞り分一覧.....	251
図1 上徳間村用水關係略図.....	238

第6章

表1 文化四年今里村(幕府領)階層構成.....	258
表2 寛政七年の元金返済件数と平均額.....	259
表3 更級家の貸付先.....	260
表4 更級家貸付先の主要支配ごとの分布表.....	263
表5 堅帳「質地并作徳」の内容.....	264
表6 松代藩領相手の訴訟規模.....	266

表 7	文化一四年五月江戸出訴内容……………	267
表 8	高田藩領返済過程一覽……………	281
表 9	保高町村小川家の貸付件数・金額……………	283
表 10	小川家・更級家貸付先対照表……………	284
表 11	文化一〇年における小川家と更級家の規模別貸付件数・金額比較表……………	285
表 12	文政八年における小川家と更級家の規模別貸付件数・金額比較表……………	286
終 章		
図 1	本書で明らかにした範囲……………	298
図 2	社会の存立の四つの形式……………	301

序 章 本書の課題と構成

一 問題の所在

本書は一九世紀の豪農・名望家と地域社会の関係を、上位権力（領主など）や都市と取り結ぶ関係にも留意しながら総合的に検討する。これによって、近世・近代移行期の特徴を解明するための地域社会論の提起を目指すものである。近世と近代にまたがる時期を対象としているので、関連する研究史を個別に検討していく必要がある。以下では、研究史の整理をおこないつつ、このような課題を設定した理由を論じていきたい。

とりあげる対象地域として、畿内・信濃の二地域を設定した。この両地域は、従来の先行研究では、それぞれ先進地域・中間地帯と呼ばれ対照的な地域とされてきた。そのような区分に批判はなされているものの、生産力の観点からすれば差異があることもまた事実といえよう。⁽¹⁾異なる地域において、同時代の同一課題を追究して共通性と差異から知見を得ることは、時代の特徴を捉える上で重要と考える。したがって、本論文では一九世紀の畿内・信濃の二地域を分析対象として設定する。

1 世直し状況論から地域社会論への展開過程

(1) 六〇年代末～七〇年代の世直し状況論とその批判

佐々木潤之介によって提起された世直し状況論⁽²⁾は、地主制論・階級闘争論・幕藩制国家論を組み込んだ「総合型」の議論であり、個別の批判は展開されているものの、全面的に乗り越えられているとはいえない研究状況にある。したがって、この内容の検討から始めなければならない。

佐々木の世直し状況論は次のようなものである。宝暦・天明期からの商品経済の浸透によって階層分解が進展し、豪農と半プロレタリアート(半プロ)が非和解的な関係として析出されてくる。豪農とは、村役人にして村方地主および高利貸商人としての三側面をもつ。開港以降深刻化する社会情勢の中、半プロを指導して社会変革を成し遂げる歴史的役割を果たすべきであった豪農は、その変革主体としての役割を果たすことができなかった。その理由は、政治には直接参加しない兵農分離制と、年貢収奪の重みを直接には感じさせにくい石高制によるとされた。明治二年(一八六九)以降、明治政府による大規模豪農の編成がおこなわれ、中小豪農は没落の危機に瀕することとなった。このような豪農は、地租改正反対一揆、自由民権運動を闘っていく、と見通している。

この世直し状況論には、以下のような批判が出されることになった。⁽⁵⁾①豪農の政治的役割を過小に評価し過ぎている、②豪農の規模の別を明治になって急に理論に組み入れるのはおかしい、③村落共同体が十分議論に組み込まれていない、④幕末期の豪農の負のイメージと自由民権運動を担う豪農とがつながってこない、⑤世直しの担い手は半プロではなく(没落しつつある)小生産者ではないか、といった五点が重要であろう。そして、⑤をのぞく批判点は、そのまま、八〇～九〇年代の研究史を形作ることになった。

(2) 八〇～九〇年代の諸研究

A 政治的役割の研究

この分野の研究を推進してきたのは久留島浩⁽⁶⁾、藪田貫⁽⁷⁾、平川新の三氏である。久留島は、甲州と備中の幕領組合村を対象として、村々が組合を作り定期的に寄合をおこない惣代庄屋・郡中惣代を立てて行政を請ける広域行政の内容や、重層的に徴収・支出される組合村入用の在り方を明らかにし、これを「公共性」と位置づけて豪農が果たした政治的役割を重視した。藪田は、畿内における村々の訴願活動(国訴)において取り結ばれる「頼み証文」を国訴惣代制と定義し、「代議制の前期的形態」を見出した。平川は、近世社会のタテの関係よりもヨコの関係に着目するとして、地域社会を諸利益集団が群立する社会としてとらえ、「民衆」は訴願をおこない、時には政策自体を「献策」することによって政治に参加していた、とする。このような空間を平川は「公共圏」、地域を牽引する存在を地域リーダーとして現在も持論を発展させている。⁽⁹⁾

これらの研究は、世直し状況論では見落とされざるを得なかった豪農の政治的役割を明らかにした点で大変重要な成果といえよう。しかしながら、社会構造分析との接点を切り落としてしまっており、それまで蓄積されていた膨大な社会構造研究や階層構造の分析などと整合性を取りにくい研究状況となってしまった。また、訴願する「民衆」がどのような階層的利害を背景としているのかという疑問から、豪農層と小前層とを区分して分析すべきとの批判もなされている。⁽¹⁰⁾しかしながら、この二点の批判に対してこれらの論者は積極的な対応を示していない。

B 社会的権力論の潮流

次に、佐々木の議論を引継ぎながらも、豪農の社会的編成を問題とする立場からの研究に吉田伸之による社会的権力論の提起がある。⁽¹¹⁾都市史研究者の吉田は、佐々木の村方地主論を再評価したうえで、①在地社会の構成要

序章 本書の課題と構成

第I部 一九世紀の畿内における豪農経営と地域社会状況

第一章 近世後期の畿内における豪農金融の展開と地域（渡辺尚志編『畿内の豪農経営と地域社会』思文閣出版、二〇〇八年）
第二章 畿内の無担保貸付への私的所有権確立の影響（渡辺尚志編『畿内の豪農経営と地域社会』思文閣出版、二〇〇八年の副題を主題へと変更したもの）

第三章 地域金融圏における地域経済維持の構造——中核的豪農と一般豪農の関係分析を中心に——（新稿）

第四章 幕末期河内の地域社会状況——棉作から米作への転換と慶応期の社会状況の関係——（新稿）

補論 大坂本屋・正本屋利兵衛の「武鑑」「在方本」の出版活動（『書物・出版と社会変容』第六号、二〇〇九年）

第II部 信州における近世後期の金融活動

第五章 文化・文政期の松代藩と代官所役人の関係（渡辺尚志編『藩地域の構造と変容』岩田書院、二〇〇五年）

第六章 近世後期の信濃国・越後国における豪農の広域金融活動——更級郡今里村更級家を事例に——（『信濃』六二巻一、二〇一〇年・六三巻二、二〇一一年）

終章 本書の総括と今後の課題

※序章・第一章・第三章・第五章・第六章・終章は、一橋大学大学院社会学研究科に提出した課程博士論文「一九世紀の豪農・名望家と地域社会」（二〇〇八年六月三〇日学位授与）を一部改稿したものである。論文審査委員を務めてくださった渡辺尚志、若尾政希、田崎宣義、森武磨の各先生に深く感謝申し上げます。

あとがき

本書ができるにあたって、その経緯とお世話になった方々へのお礼を述べておきたい。

北九州の進学校で高校時代を過ごした私は、両親が東京の大学を卒業していたこともあり、地元で進学する同級生も多い中、一橋大学社会学部に入学することになった。

一橋大学には、一・二年生でも履修可能な前期ゼミナールという恵まれた制度があり、一年生のときに日本近代史の田崎宣義先生の「本を読む」というゼミナールを受講した。『自由からの逃走』『タテ社会の人間関係』といった、社会科学に関する本を正確に読むという目的の授業は、受験勉強に倦んだ私にとってはとても新鮮だったことを憶えている。三・四年では、政治学の加藤哲郎先生のゼミナールに入れていただいた。世界的に反体制運動が起こった一九六八年という共通テーマの討論や、文献輪読、卒業論文作成の過程は、体育会の活動に似てしんだ大学生活を送った私にとっても、大きな財産を残してくれた。この時に、本をきちんと批判的に読む、という力を身につけられていなければ、現在の私はなかったと思う。後に、大学院に復学した際にも、変わらず暖かく接してくださったお二人にはとても感謝している。

実社会をきちんと知りたいという、いま思うと漫然とした生意気な動機から、九州旅客鉄道株式会社に就職した。国鉄の民営化から七回目の採用であったことから、年齢的には不相応な大きな仕事も任せていただいた。五年七か月のサラリーマン生活であったが、多くを鉄道事業本部営業本部企画部運賃制度係で勤務した。JR他社や旧運輸省の出先機関、運賃の清算部門や他部署とのやりとりなど、一生勤務するという前提での親心のような扱いも多く受けていたのだと強く思ったのは、退職してしばらくたったことであつた。直属の上司であつた下

村裕担当課長と、福岡和彦副課長（当時）をはじめ、お世話になった方々に深くお礼を申し上げたい。

もう一度勉強したいと強く思うようになり、一橋大学大学院社会学研究科修士課程の渡辺尚志先生のゼミナールにお世話になることになった。先生は、村落共同体のお仕事を土台に、地域社会論、藩地域論、農村と都市の関係、裁判のあり方、災害史といった幅広い分野に積極的に自身のお仕事を拡げられている。私が修士課程から博士課程にかけて在籍した時期は、エネルギーシユにお仕事を展開されていく時期であり、そのような過程を学生として見ることはできたのは幸なことであつた。先生から学んだ一番大きなことは「学問に対する厳しさ」である。日々身を以てそれを体現されている先生のもとで研究活動ができることは、本当にありがたいことで感謝している。

同じく大学院では、若尾政希先生のゼミナールで学ぶことができた。思想史の世界に書物研究という新しい分野を切り拓かれた先生からは、「問いを立てる」ことの重要性を学んだ。ゼミナールに入れていただいたのは一年間であつたが、研究会やさまざまな機会に、今も多くのことを学んでいる。お二人のゼミナールで学ぶなかで、糟谷幸裕さん、小酒井大悟さんをはじめ、メンバーの方々には本当にお世話になった。その時の議論なくしては、本書のような形は望むべくもなかったと思う。

博士課程を修了するのと前後して、一橋大学附属図書館学術・企画主担当で、大塚金之助関係資料の整理をおこなう仕事に就くことができた。大塚金之助とは、アジア・太平洋戦争中に一橋大学を逐われ、戦後復学した当時のカリスマ的な大学教授である。昭和史は専門ではないが、書簡や講義ノートなどの一次史料は圧倒的な力で追ってくるものがあつた。また、勤務時間の前後に、貴重資料である岡田家文書の閲覧で館員の方々に毎日お手間をお掛けした。ライブリアン、という一職業を間近に見ることができたのは、とても勉強になった。大学院の同期でもある専門助手の杉岳志さんをはじめ、皆さんには本当に感謝している。

現在勤務しているすみだ郷土文化資料館は、地域資料の収集、展示、調査、研究を目的とする地域博物館である。墨田区は震災と戦災で多くの方々が亡くなった痛ましい場所でもあるが、その中で地域の歴史を発掘し、位置付けていく仕事はとても重要でやりがいがある。望月邦彦館長、田中禎昭専門員（学芸員）をはじめ、館員の方々には日々お世話になっている。また、本書刊行に際しては、思文閣出版の田中峰人さんにいろいろとご配慮いただいた。厚くお礼申し上げます。

最後に私事で恐縮だが、妻と二人の娘、妻の両親、私の姉と弟の日々の愛情に感謝したい。そして、二〇〇五年に亡くなった父と、育ててくれた母に本書を捧げることをお許しいただきたい。

二〇一二年七月 ふじみ野市福岡にて

福澤徹三

【研究者名】

あ行

天野彩	94
荒川秀俊	255
荒木仁朗	97
有泉貞夫	13, 17
飯島千秋	255, 256, 290
石井三記	94
石井良助	292
稲田雅洋	16, 17, 99
岩田浩太郎	8, 11, 18, 20, 21, 298, 299, 304
植村正治	97
丑木幸男	15
大口勇次郎	96
大島太郎	13
大塚英二	6, 16, 23, 300
大藤修	23
大森映子	254
岡山藩研究会	305
奥村弘	14, 17
小田真裕	92, 93
落合延孝	6, 21

か行

神谷智	6
岸野俊彦	305
北島正元	172
熊井保	282, 289
久留島浩	5, 7, 307
小酒井大悟	92, 255
小松賢司	176, 294

さ行

酒井一	175
佐々木潤之介	4, 11, 20, 31, 73, 89, 90, 135, 137, 175, 300
佐藤政則	138
志村洋	10

白川部達夫	6, 136
新保博	180, 305
神保文夫	94
菅野則子	152, 172, 175, 204
杉本史子	254
鈴木寿	235

た行

高久嶺之介	15, 16
高橋亀吉	138
高柳真三	292
武部善人	138
竹安繁治	32, 56, 202
谷本雅之	97
谷山正道	306
多和田雅保	8, 256
津田秀夫	201
筒井正夫	13, 21, 303
常松隆嗣	12, 21, 299
鶴巻孝雄	16, 17, 99, 291
戸森麻衣子	236

な行

中川すがね	91
中村哲	23, 289
中村政則	25, 138
西沢淳男	255
丹羽邦男	136, 137
野本禎司	55, 93, 136, 172, 219, 230

は行

ハーバマス	303
馬場憲一	292
葉山禎作	187
平川新	5, 307
平野哲也	9
福山昭	91, 300
舟橋明宏	92

ま行

前田美佐子	219
町田哲	8

松沢裕作	17
松田泰代	229
三浦俊明	306
見田宗介	19, 301, 304
村上直	255, 292
森垣淑	138

や行

戴田貫	5, 7, 205, 219, 307
山崎圭	12
山崎善弘	7

索引

山崎隆三	32, 65, 305
山田耕太	255
吉田伸之	5, 11, 307

ら行

頼祺一	23
李東彦	141, 159

わ行

渡辺尚志	6, 18, 23, 91, 139, 202, 228, 233, 294, 299, 303, 305
------	---

中核的豪農 63, 86, 87, 89, 140, 150, 169,
174, 219, 298, 304, 305

中間地帯 3, 257
長期(貸付) 70, 71, 118, 131
徴収代理人 110
町の入用 198
帳簿形態 32

て

叮嚀 71
手形 73, 76, 79, 87, 91
手代 233, 242
手附 233, 243

と

動産担保 131
道場 197
土岐氏 79, 82, 83, 137
都市商人 32
都市と農村(農村と都市)

32, 76, 79, 89, 170

都市両替商 72, 77, 86, 87, 91, 170
戸田越前守 137
土地所持の範囲 44
土塔村 72
豊田栄次郎(用人) 279, 281, 292
取替帳 32
取次 107, 137
富田林銀行 126
富田林村 175, 200

な

「内々」(の関係) 245, 248, 252, 253
成崩証文 247, 260, 271, 274, 277, 278
成崩返済 271, 274

ぬ

沼田領十三か村 82, 83

ね

年賦割済 265

の

農業経営の維持 253, 290
農業生産者 196, 198-200

は

灰屋安兵衛 224
伯太藩 57, 79, 137
伯太村 57
幕藩機構 253
幕府の改鑄(悪鑄)政策 299
幕府評定所 62, 94, 246, 262, 264-267,
275, 277, 278, 280-282, 289
板木総目録株帳 215
藩札 82
藩社会論 300
藩世界論 300
藩地域論 300
半田 202

ひ

東弓削村 47, 55
樋口 238
非人格的關係 19, 300
引札(同前) 292, 300
「ビジネスチャンス」 135
樋屋市次郎 220, 221
樋屋伴助 221
平石村 118
平岡熊太郎 243
平野 220

ふ

深谷遠江守(勘定奉行) 279, 281
武鑑(狭義) 211
武鑑(広義) 211
福井祐右衛門 72
副戸長 136
複層性 65
不作状況 156
譜代大名化 254
扶持 83

古市村 36
文書による支配 227
文政期以降の改鑄 171

へ

米価 87, 119, 129, 137, 143, 146, 194
米納年貢 289
返済期間の短縮化 125

ほ

北条村 47
保高町村 282
本屋の経営努力 227

ま

舛屋重助 224
町場化 199
松浦伊勢守(勘定奉行) 276
松方デフレ 16, 129, 275

み

未進額 160, 169
未進代 146, 153, 155

む

村の中上層 140, 150, 167, 173, 287

め

名望家 13-15, 20, 21, 25, 136, 303, 306
免合 138, 153, 158, 178
棉作団地(慣行)
182, 187, 188, 190, 192, 194, 195, 199
免定 38

も

元メ 236, 237, 243
諸福村 72

や

八尾今井村 72
八尾の久御坊 72

よ

用水規定 194, 199
用達 221
余業 46, 47, 186, 192
預金 129
世直し状況(論) 4, 5, 20, 200, 302
与力町図 216

り

両替商 32, 56, 73, 76, 77, 79, 82, 87
領主貸
31, 54, 76, 79, 82, 87, 89, 90, 100, 171
領主裁判権 62, 90
利率 47, 77, 86, 168, 171, 173, 271, 283
輪作 202

れ

連合体 301, 303-305

わ

渡辺氏 79, 94

基幹商品作物	179
熙代勝覧	229
北上野村	247
北木本村	94
北長池村	246
肝煎	196-199
「居村同様」	34, 54
銀札	86, 89, 90, 96, 134, 135, 170
銀札価値	86
銀相場	89, 90
近代移行期論	20, 304
近代的高利貸金融機関	306
金融市場	63, 70, 73, 171, 173, 288
「金融の家」	87
金融の維持	253, 290
金融部門	146, 168
近隣地域	29, 48, 283, 293

く

公事師	241
具足屋	32, 76, 77, 79, 91, 95
国役普請	243
組合村	5, 6, 12, 17, 55, 56, 135, 227, 304
蔵之内村	43
蔵屋敷	206, 209
経営分析	12
欠損割合	151
「圏」	19

こ

高額金融	287
公共性	5, 303
恒常的關係	55, 56, 104, 140, 200
広大なネットワーク	86
豪農	4-6, 8, 10-21, 23, 56, 65, 67, 86, 87, 90, 129, 130, 173, 245, 257, 287, 289, 306
豪農の政治主体化	90, 91, 135
豪農・村役人層	36, 37, 40, 56, 98, 135, 140, 204, 287
豪農類型論	7, 303
国府村	60, 95

郷宿	207, 223, 224, 226
高利貸	6, 16, 19, 300
石換算	100, 101, 143, 147, 170
国訴	5, 136, 178, 229
国分銀行	126
国分村	175, 200
五石未満	35, 166, 194, 202
小作騒動	175, 200
小作地経営	163, 167, 168
小作地(の)編成	163
小作人編成	162
個人銀行	126
戸長辞職問題	139
米の価格優位性	187
米札	82, 83, 89, 90
米屋	32, 71, 76, 79, 91
孤立型棉作地	190, 191
誉田村	150

さ

在方便用録	205, 208, 210, 219, 225, 227
在方本	210, 211
財政的圧迫	57, 60
堺銀行	126
堺区裁判所	111
堺県役所	137
作付動向	192
更池銀行	126
産業資本	302
三層の構造	87
山稜奉行	137

し

地預り	247-249, 271, 272, 274, 275
信楽御役所	158
信楽代官所	55, 72, 183, 196, 197
直上納	241
寺社名目金	300
「市場」(金融)	65
地所質入書入規則	110
システム・タンク方式	202
実現利率	70, 278, 282, 288, 289

執行力の変化	118
私的所有権	16, 99, 134, 135, 288, 300, 302
私的貯蓄預り金	107
地主・村役人層	197, 199
地主部門	146
芝村藩	137
嶋泉村	44
社会経済史	18
社会的権力論	5, 8, 11
社会的編成	5
「社会的編成」論	11
借入金	72, 77, 86, 89
社債	128, 134
自由民権運動	4, 16, 20
一九世紀地域社会論	305
一九世紀論	21
一五石未満	35, 171
集列体	301, 303-305
主体の選考	195
出勤帳	211, 217
商業部門	146
商工業者	44
常田	192
商人の営業資金	71
正本屋利兵衛	205, 226
定免(制)	153, 155, 156, 158, 178
食料価格	158, 166
信用	44, 90
書物文化	227
白木役所	43
人格的關係	19, 56, 292, 300
新規貸付件数と金額	33, 104
身体限	63, 66, 91, 94, 110, 289
新堂村	175
す	
数量経済史	299
鈴木町代官所	155
せ	
生産力	3, 32, 87, 176, 199, 257

索引

「正式」(な関係)	237, 244, 245, 253
政治的役割	170
摂河泉播郷村高附帳	210, 211, 224
銭屋	32, 91
先進地域	3, 87, 176
専門的土木集団	184, 186
そ	
曾我豊後守(勘定奉行)	292
訴訟費用	62
村外への貸付状況	36
村内小前層	141, 167, 168
村内の中上層	35, 54, 64, 65
村内の中層	293
村内への貸付状況	35
村落共同体	4, 6, 7, 18, 20, 44, 87, 199, 301, 304
た	
貸借関係のルール	125
高槻(御)役所	37, 220, 221
高槻藩預所	141, 221
高持寄合	183
他国地域	48
他村の土地所持	40
谷町二丁目代官所	225
短期(貸付)	47, 70, 71, 87, 118, 131
短期融資	44
丹南郡大字平尾	110
丹南郡組合村	155, 156, 174
丹南郡七か村	37, 55, 94, 135, 225
丹波屋栄蔵	214
ち	
治安維持	199
治安問題	158
地域金融圏	29, 56, 57, 64-66, 86, 93, 101, 104, 129, 140, 147, 171, 283, 284, 289, 293, 299
地域経済圏	299, 305
地域社会論	6, 7, 18, 24, 140, 298, 303
地域的社會権力	31

福澤 徹三 (ふくざわ・てつぞう)

1972年 福岡県に生まれる
 2008年 一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程修了
 現在 すみだ郷土文化資料館専門員，埼玉学園大学非常勤講師・博士(社会学)

〔主要論文〕

「農業雑誌の受容と実践」(『一橋論叢』134巻4号，2005年)
 「吹上隧道開通運動と川口昌蔵」(渡辺尚志編著『近代移行期の名望家と地域・国家』名著出版，2006年)
 「文化・文政期の松代藩の在方支配構造」(荒武賢一朗・渡辺尚志編『近世後期大名家の領政機構』岩田書院，2011年)

じゅうきゅうせい き ごうのう めいぼう か ち いきしゃかい
 一 九 世 紀 の 豪 農 ・ 名 望 家 と 地 域 社 会

2012(平成24)年7月31日発行

定価：本体6,000円(税別)

著 者 福澤徹三

発行者 田中 大

発行所 株式会社 思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355

電話 075-751-1781(代表)

印 刷 株式会社 図書印刷 同朋舎
 製 本

© T. Fukuzawa

ISBN978-4-7842-1642-0 C3021

1：本書中の事項、人名、地名のうち、主なものを採録した。頻出するものは、節および項の冒頭のみ採録したものがある。

2：図表で一覧できるものは、除いたものがある。

3：研究者名は別に掲げた。

【事項・人名・地名】

	大坂本屋仲間記録	211, 226
	大坂町奉行所	62, 63, 94, 97, 217, 230, 289
	大津代官(所)	221, 224, 225
	大堀村	83, 86
	岡田銀行	100, 101, 119, 126, 134, 136
	納合	38, 151, 158
	御普請所	240
	御役録	205, 211, 216, 223, 226
	か	
	借入金	146, 168
	海沼与兵衛	242-245, 253
	乖離率	70, 118, 120, 131
	加賀屋孫助	214
	書附留	65, 155, 176
	笠置宿	197
	華士族平民身体限規則	110
	片山村	42
	金貸会社	306
	株式投資	128, 130, 134
	貨幣資産	171, 289, 302
	貨幣量	171
	借り手有利	129, 171
	川口昌蔵	304
	河内貯蓄銀行	126
	河内屋太助	214
	勧解制度	111
	神崎屋金四郎	205, 211
	勘定奉行所	246, 266
	勘定役	242, 255
	き	
	「機関銀行」	128
あ		
相対済令	278, 281	
飛鳥村	60	
預り(借入金)	72	
い		
石川郡大字中	110	
石川氏	43, 79	
石川忠房(勘定奉行)	291	
石黒享平(手代)	197, 198	
石原清左衛門	225	
一般豪農	140, 169, 173, 174, 298, 305	
稲作率	179, 187	
「戌」の満水	237	
う		
上田村	184	
え		
江戸賄	79, 89	
遠隔地域	48, 104	
お		
大阪朝日新聞	126	
大坂御役前録	210, 211	
大坂卸売物価	179	
大坂袖鑑	205, 206, 209-211, 214, 215, 226	
大阪府知事	107	
大坂使用録	205, 207, 210, 219, 224, 227	